



# 善正寺だより

〒:512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
TEL:0593-31-1670  
TEL:0593-32-0733

## 掲示板法話

### 「明日ありと思う心のあだ桜」

#### これは経済危機に惑う我が事ではないか？

いよいよ、本年最後の「善正寺だより」となりました。今年も誠に嘆かわしく、悲しいことが続きました。無差別殺人を犯した犯人が「誰でもよかった」とうそぶき、後からもこんな虚無的な言葉を発する人がどんどん現れるこの時世は、悲しくも切ないことです。

そんな世の中を嘆きながらも、我々人間は「内なる喜び」がなければ生きられない存在ではないかと思えます。

十月半ば頃、中日新聞「くらしの作文」で喜びのおすそ分けに預かったような言葉を発見しました。タイトルは「小説・親鸞」、投書の主は岐阜県の六十五歳の女性です。

「本紙朝刊小説の『親鸞』に読みほれてる。最初、私には親鸞なんてとても無理と思っていた。ところが、毎日読み進んでいくと、とても面白い。すこく引きつけられて感動する。登場人物も生き生きとして、なぜか私の胸に迫ってくる。」という書き出しに驚かされます。

「親鸞に読みほれてる」とは、最大級の表現ですね。長瀬さんという投書なさった方は長年、祖母や母から念仏生活の大切さを教えられてきたことが

文章からうかがわれます。そして「小説を楽しむことで親鸞が身近になって毎朝がうれしい秋になった。」と締めくくられています。借り物でない、この人自身の言葉で喜びが語られていることに、感心しました。(傍線筆者)

省みて、自分はこの人のように毎日、小説「親鸞」を真剣に読んでいるだろうか、お恥ずかしい限りです。「小説家というのは勝手なことを書くなあ、いつになったら親鸞聖人(幼名・忠範)の得度の場面になるのだろうか」、などと評論家的読者でした。しかし、十一月に入り、いよいよ得度の場面になりました。

九歳の春、青蓮院で得度されますが、得度の式は明日にしようとして戒師の慈円師が勧めたところ、忠範が歌を詠み今夜のうちに得度したいと願いだしたというのが定説ですが、この連載小説において五木氏は面白い創作をしました。慈円師が「明日ありと思う心のあだ桜」と上の句を詠み、忠範に下の句を詠むよう促しました。そこで、忠範が

夜半の嵐の吹くぞ悲しき

と続けたところ、「ちと生ぐさい気もする」と評し、

夜半に嵐の吹かぬものはと下の句を慈円が詠んだ、というのです。「生ぐさい」とは、源氏の流れを汲む忠範が平家全盛の世にあつて平家の衰退・滅亡と解釈されかねない歌を詠むことを危惧されたという意味です。それと共に慈円は、彼の歌の才能を「人の心を揺るがす不思議な響きがある」と誉め、僧侶としての大成を予言したのです。真偽のほどは不明ですが、新鮮な見方に興味をわきます。親鸞聖人への通説的な理解を超えて、悩ましい現代の課題を解く努力を怠ってはならないと心を揺り動かされました。



鐘つきの子供達ドッジもしたよ

皇帝ダリア



9/19ピアノとフルートのコンサート

垂坂山のカワセミ  
服部香苗氏撮影

## ☆行事ご案内☆

### お内仏報恩講

師走恒例行事、お待ちしております

### 12月6日(土)夜7時半、庫裡

ぜんざい、お酒、粗食用意。お問い合わせしてお参り下さい

#### ◇行事予告

除夜の鐘12/31夜11時45分より。誰でもOK

元旦会 1/1 朝9時 新年に家族揃ってお参りを!

報恩講1/11(日)午後・夜、12(月)午前・

午後(仏婦):大畠信隆師(大阪); お非時は11日午前11時

#### ♪三重組コーラス♪

※12/12(金)午前10時半・陽光苑誕生会慰問 23回目

※12/13(土)夜7時半練習、第2土曜お間違ひなく!

◇キッズサンガ:12/31除夜の鐘と元旦会(お年玉菓子付)

◇一線会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索『新着情報』

『住職と坊守のつれづれ日記』おススメ! ほぼ毎日更新。

# 坊守スケッチ

## 五つの「いじょう」の怖さ



食生活の乱れが、現代人、特に子供や若者の心を蝕んでいる。教育の現場でも「食育」が盛んに叫ばれている。連日のように食の安全を脅かすニュースも流れる。輸入物の安価な食材の陰に農薬汚染があった。経済効率優先のために、大量に作り、大量に消費し、大量に廃棄する食生活へと変わった。昔は家族で食卓を囲み、「ご飯粒一粒まで大切にし、」近所に食材をお裾分けする近所付き合いもあった。近年では共働き家庭が増え、忙しさと引き換えに、大切なものまで失った気がする。食生活の乱れを代表する言葉に、五つの「こしよく」というのがある。先ず一つ目は「孤食」。一人で食べる孤独な食事のこと。二つ目は「個食」。同じ食卓を囲んでいても、大人は和食、子供はカレーライスと言うように家族が好き勝手にバラバラなものを食べる食事のこと。三つ目は「固食」。自分の好きな同じものばかりを食べる食事。四つ目は「粉食」。パンやうどん、スバゲティなど小麦粉で作ったものを好んで食べる。五つ目は「戸食」。戸外食ともいう。コンビニやファーストフードの味の濃いものを好んで食べる。さらに食欲が無く、食が細い「小食」をあげる人もいる。教育学者の中井孝章氏は「孤食・欠食・個食・固食」の四つの頭文字(孤・欠・個・固)を

取って、「ニワトリ症候群」(コケッコウー症候群)と名づけた。朝食を食べずに学校に来る子供達が、二十年前に比べて倍増している。夜は塾で家族と一緒に食事ができず、スナック菓子や清涼飲料で空腹を満たす。大人達も帰宅して手間のかかる食事作りは拒否して、スーパーの惣菜売り場で買い物をして、食卓に並べる。私も忙しい時には利用しているの、えらそうなことはいえないが、家族の揃った寒い季節には、鍋物が一番!温かさに満たされた家族団らんの幸せを感じる。

ところで時代の寵児ともてはやされ、詐欺罪で捕まった音楽家の小室哲哉容疑者は、人気者になってからゆっくりに家族で食卓を囲んだことが無いそうだ。食事はいつもコンビニ弁当。預金通帳にゼロの金額が書き込まないほどの大金を稼いでも、一瞬のうちにアブクと化し、悪の道に転落していった。結局貧しい食事からは、幸福感は満たされなかったのだろう。

すぐにキレテしまう子供達。自己中心的でマナーを知らない若者達、無気力で注意もしない大人達。これらは全て「食の乱れ」と深く関わっている。五つの「こしよく」の怖さは、私達の心まで奪いかねない。不景気風の吹く今こそ、食を通して心のあり方や生活のあり方を見直そう。アメリカのオバ

マ新大統領の真似ではないが、それが世の中をチエンジする第一歩だ。

### ☆寄稿

四日市市 川崎 孝一

☆秋の蝶 ママチャリ籠の墓花に  
相乗り来るも 縁は玉響

☆公園に 胡蝶すみれを見下ろすか  
皇帝ダリア もう咲初む

☆俱会の字の窪みに蛙 雨宿り  
膚に小寒い 驟雨の墓所は

☆置いてゆく 手足に ありがとう  
四日市市 釈 弘 蓮

☆置いてゆく 手足に ありがとう  
福井 故・前川 五郎松

ウラ(私)の仏法 極楽探し  
十万億土まで探してみたが  
今が今とて見つからん  
分からんはずじゃも  
近すぎて

◇池田勇諦師(桑名・大谷派)のNHKラジオ「宗教の時間」で法話より抜粋。  
法名の投稿OK。ご投稿お待ちしております。

三重組コーラス♪

※十二月十二日(金)午前・陽光苑慰問  
※十二月十三日(土)夜七時半 練習  
第二土曜日の夜です。お間違いないく

キッズサンガ・杉の子合唱団

◇十二月の集いは無し。除夜の鐘(十一時四十五分)と元旦会(朝九時)のお参りに代えます。お年玉の菓子用意しています。家族揃ってお参り下さい。

### ☆ホットニュース☆

☆善正寺のホームページが公開!仏事に関する相談、お悩み等気軽にお寄せ下さい。「三重 善正寺」で検索可。

※「住職と坊守のつれづれ日記」がおススメ。ほぼ毎日更新。過去の日記も右横にある Archives(アーカイブス)2008.8月、9月、10月をクリック。カレンダー方式で出てきます。開設三カ月でアクセス数が二千八百回を超えました。若者や子供、今までお寺と縁がなかった方の訪問に感謝。

※一面の「ミケチャン情報」や「新着情報」にも注目!

◇十一月二十日(木)夜七時(阿倉川・真楽寺於)「三重組研修会」住職・坊守、門徒さんの前で、坊守が「お寺の現状と未来について」スライドを使って提言発表。初めての経験で緊張しました。

☆カンバ有難う☆  
KH様・HK様・他匿名様より頂きました

### ☆ 編集子より ☆

「善正だより」第一八〇号をお届けします。◇秋は褒章の季節、長年点字翻訳奉仕を続けてこられた伊藤孝一氏(西伊倉町)が市長表彰を受賞されました。たゆまぬ努力と温かきお心を尊く仰ぎ、心よりお祝い申し上げます。◇本紙創刊から十五年が経過。世相の荒廃がいよいよ顕著ですが、今日の安心・安全と共に明日の希望と光が不可欠です。これまでもご愛読を謝しつつ、来年も皆様と共に精進したいと思います。合掌。

知り合いの方守さんから「H&Kラジオの宗教の時間に池田勇謙先生(大谷派)のご法話があるから聞いてみて」とメールが来ました。故松岡ナミさんという念仏者がほんに今まで知らなかったと唱えてみえた。教え歌を紹介されました。紙面の都合で全部は掲載できませんが、その一部を紹介します。「二つには必定地獄と聞きながらうぬぼれ心に騙されて落ちる我が身」ということをほんに今まで知らなんだ。「三つには不定のいのちを持ちながらよもやよもやで日を送る今宵も知れぬいのちとはほんに今まで知らなんだ」「三つは皆さん後生は大事やと他人には言うて聞かすけど、わが身の大事」ということをほんに今まで知らなんだ。「四つにはよくよくお慈悲を聞いてみりや助ける弥陀が手を下げて任せてくれよの仰せとはほんに今まで知らなんだ」「五つにはいつもお礼は忙しく浮世話に気が長いかかる横着者」ということをほんに今まで知らなんだ(後略)

後半を知りたい方は「ご報下さい」メールかFAXで送信します。特に三つ目と五つ目には坊守としてドキッと反省させられました。来年こそ仏前のお礼はていねいに、浮世話はほとんどにして、聴聞を重ねたいと思いき、夕方5時の鐘つき前には子供達が寺に向けてかけ寄る足音が聞こえます。お寺に縁がなかった新住人の子供達と合掌してお念仏を唱えます。鐘の音はとこまでも響き渡り、私には大きな喜びです。12月6日(土)夜7時半お内仏の報恩講。どうかお誘い合わせてお参り下さいませ。合掌

平成二十年十二月 善正寺坊守拜